# 配慮が必要な方への対応

## 《地域で共に助け合う》

高齢者・障害のある方・乳幼児など特に配慮が必要な方を「要配慮者」といいます。中でも障害のある方については、障害の内容に応じて、日頃からの備えや、避難時の支援が異なります。このような方々を災害から守るために、皆さんで協力し合いましょう。

### 高齢者・寝たきりの方

**日頃の備え**
- 室内はできるだけ広くして、家具、棚の上に重い物、角のある物を置かない。

**災害時には…**
- あわてて外へ飛び出さない。
- 家の中の安全な場所に移動する。

**介助のポイント**
- 緊急のときはおぶって安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。
- 不安を取り除くように声をかける。

### 耳が不自由な方

**日頃の備え**
- 補聴器、携帯電話、文字情報が得られる携帯端末などを手元に置いておく。
- 笛やブザー、筆記用具を携帯しておく。

**災害時には…**
- テレビ、文字放送、携帯電話やメモなどで、正確な情報を入手する。近くの人に耳が不自由であることを伝え、必要な支援を依頼する。
- 笛などを吹き、居場所を知らせる。

- 話をするときは口をきちんと開けて普通に話す。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

### 目が不自由な方

**日頃の備え**
- 白杖やラジオはいつでも手の届くところに置いておく。
- 家具等の配置の変更は本人に必ず伝える。
- 笛やブザーを携帯しておく。

**災害時には…**
- 笛などを吹き、居場所を知らせる。
- 周りの人に安全な場所までの誘導を依頼する。

- 災害時には本人のそばへ行き、支援が必要か声をかけ、正確な情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、腕や肩につかまってもらい、半歩前をゆっくり歩く。
- 説明するときは、前後、左右、上下等、具体的な言語を使う。

### 肢体が不自由な方

**日頃の備え**
- 室内の安全スペースの確保と、家具等の転倒防止策を十分にする。
- 車いすが通る幅を十分確保する。

**災害時には…**
- 無理な行動をとることを避けながらも、動ける場合は、這うなど安全な姿勢をとり、頭部を座布団などで守る。
- 車いすは安全な場所に停め、介助者の協力による避難支援を求める。

- 車いすの移動は、階段では3～4人で運ぶのが安全。上りは前向き、下りは後ろ向きに移動する。
- 介助者が1人の場合、おぶい紐などを利用し、おぶって避難する。

### 災害時障害者サポートマニュアル

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/welfare/005/011/001/p004165.html

災害時における障害のある方への支援方法を障害別にまとめたマニュアルです。

### 障害がある方のための防災マニュアル

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/welfare/005/011/001/p004166.html

障害のある方を対象に、災害に対する日頃の備えや、避難時の注意点を障害別にまとめたマニュアルです。

### 外国人の支援に強い味方!! VoiceTra〈ボイストラ〉

**話した内容を外国語に翻訳!!あらゆる災害の現場で役立つ。**

NICTが開発した多言語音声翻訳アプリ「VoiceTora（ボイストラ）」をベースとして、救急現場で使用頻度が高い会話内容を「定型文」として登録し、外国語による音声と画面の文字により円滑なコミュニケーションを図ることが可能なものです。また、定型文以外の会話でも、音声翻訳が可能となっています。さらに、話した言葉が、日本語文字としても表記されることから、聴覚障害者などとのコミュニケーションにも活用が可能です。

http://voicetra.nict.go.jp